

ノゲシ (野芥子)

名前の意味：野原に生えるケシの意味だがケシとは全く別の植物。

ケシの果実は傷つけると白い汁(乳液)が出る。これを固めたものが阿片である。ノゲシも傷つけると同じような見かけの白い乳液が出るがこれは阿片ではない。別名ハルノノゲシ

分類：双子葉類、キク科、ノゲシ属

(キク科の栽培植物：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、手入れの悪い庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた(自生)

特徴：刺のあるぎざぎざの葉、ちぎると出る白い乳液、黄色い花

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：合弁、5裂(たくさんの花が集まってひとつの花に見える。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：4—5月

食べ方：若葉をゆでるとおひたしで食べられる

見分け方：オニノゲシとは、ノゲシのほうが葉の刺が弱くて少ないことで区別できる。

見つけやすさ ★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、

見分けにくく、難易度が高い)

くらべてみよう：オニノゲシの葉

